

第2回 保育のお仕事ステップアップ講座

日時：令和8年9月10日（木）

10時00分～12時00分 「幼児リトミック講座」 谷津 雅子 氏

13時00分～15時00分 「障害児支援講座〈基礎編〉」 鈴木 侑里子 氏

会場：とちぎ福祉プラザ 午前：多目的ホール 午後：福祉研修室



幼児リトミック講座 講師 Sound Party Op.36 主宰 谷津 雅子 氏

講座の内容

- 年齢別リトミックのすすめ方
- 道具などを使ったリトミックの展開
- 絵本と歌で音楽を視覚的に楽しむ

本講座では、1人・2人・3人組やグループでのリトミックを通して音楽に合わせて体を動かす楽しさを体験しました。

また、ボールやフープなどの用具を活用した活動についても学び、保育の中ですぐに実践できるさまざまなアイデアに触れる機会となりました。

童謡や講師オリジナル楽曲を用いたリトミックでは、年齢や発達段階に応じた動きを実際に体験しながら、子どもたちの発達を促す活動の展開方法について理解を深めました。さらに、絵本の読み聞かせと歌を組み合わせた表現活動も行われました。音楽を聴くだけでなく、絵本の世界を通して視覚的にも楽しめる表現活動の魅力を学ぶことができました。中でも、絵本『かあさんのこもりうた』の読み聞かせと歌唱では、絵本の内容と講師の温かな歌声が会場を包み込み、参加者の心に深く響く感動的なひとときとなりました。

講座を通して、決まりにとらわれず自由に表現できるリトミックの魅力や、その実践のポイントについて学ぶことができ、保育現場につながる貴重な学びの機会となりました。

前回に引き続き好評をいただいた本講座は、今回も盛況のうちに終了しました。参加者からは、「楽しく学ぶことができた」「保育で実践してみたい」といった声が寄せられ、充実した学びの機会となりました。

※『かあさんのこもりうた』（作：こんのひとみ／絵：いもとようこ）は、東日本大震災の津波で亡くなった母親から手紙が届いたという実話をもとに生まれた絵本です。



《参加者の声》

- ・リトミックには正解や不正解がなく、保育者の認識や関わり方によって子どもたちの表現がさらに豊かになることを学びました。これまでよりも柔軟な視点で活動を捉えられるようになり、子ども一人ひとりの感じ方や表現を大切にしていきたいと思いました。
- ・とても楽しく、ワクワクしながら参加できる研修でした。保育の中でリトミックの活動がパターン化してしまうことがありますが、さまざまな実践方法を教えていただき、多くの学びを得ることができました。
- ・雨の日など戸外で活動できない際に室内で楽しく実践できる内容で、日々の保育に活かしたいと思いました。
- ・これまでは曲に合わせて決まった動きをすることがリトミックだと思っていましたが、子どもが感じたままに自由に表現することも大切であると知ることができ、とても参考になりました。
- ・年齢に応じたリトミックの取り入れ方や動きについて具体的に学ぶことができ、今後の保育に活用していきたいと思いました。

講座の内容

- 発達障害の特性や基本的な考え方
- 支援・対応のポイント
- ペアレントプログラムについて

近年、発達障害に対する社会的な認知が高まる中、保育園や認定こども園においても支援を必要とする園児が増えており、障害のある園児や発達に特性のある園児への理解を深め、適切な対応の方法を学びたいという声が多く寄せられていました。

こうしたニーズを受け、今年度は講座内容を「基礎編」と「応用編」に分けて実施することとし、今回は基礎編として、発達障害の特性や支援の基本的な考え方、対応のポイントに加え、ペアレントプログラムの視点を取り入れた支援について学びました。

講座では、発達障害の定義をはじめ、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、学習障害（LD）のそれぞれの特性や行動の背景について理解を深め、特性に応じた具体的な支援方法について学びました。特に、視覚的に分かりやすい環境づくりや、気になる刺激をできるだけ減らして安心して過ごせる環境を整えることの重要性について学び、一人ひとりの特性に合わせた関わり方や支援の大切さを再確認する機会となりました。

また、支援グッズの実物に触れながら、園で実践できる具体的な工夫について学ぶことができ、参加者にとって大変参考になる内容となりました。

ペアレントプログラムでは、「できていないこと」ではなく「できていること」に目を向けることや、できることのハードルを下げて捉えることの重要性について学びました。参加者からは、「視点を变えることで子どもへの関わり方が前向きになった」「自分自身の自己肯定感も高まった」といった感想が寄せられました。

講座は終始和やかな雰囲気の中で進められ、参加者にとって発達障害への理解を深めるとともに、日々の保育や支援に活かせる学びを得る有意義な機会となりました。



《参加者の声》

- ・とても分かりやすい内容でした。特に「見方や関り方、声かけを変えることで子どもの行動が変わる」というお話が印象に残り、自身もそのような関わりを大切にしていきたいと感じました。
- ・発達障害のある子どもにとって、環境設定がとても重要であることを改めて学ぶことができました。また、好ましい行動と好ましくない行動、それぞれに対する具体的な関わり方について分かりやすく理解することができました。
- ・質問の仕方や口頭で伝える際のポイントについて、とても分かりやすく学ぶことができました。また、「困った子」と捉えるのではなく、視点を变えることでその子の良いところが見えてくるというお話が特に印象に残り、今後子どもとの関わりに生かしていきたいと感じました。
- ・自分にも相手にも「よいところ」を見つけて認めることの大切さを学びました。「すごいね」とほめられることでやる気が出ていた子どもの頃を思い出し、肯定的な言葉かけの大切さを改めて感じました。
- ・保育者自身の認知や関わり方を変えることで、子どもへの見方や接し方が変わることを学びました。また、「ほめる」ことの捉え方や視点が広がり、一人ひとりのよさや頑張りに目を向けることの大切さを改めて感じました。
- ・発達に特性のある子どもの特徴について分かりやすく説明していただき、具体的な支援方法を学ぶことができました。園でも実践できる工夫が多く紹介されており、日々の保育に取り入れながら、一人ひとりの子どもに寄り添った支援につなげていきたいと思いました。